



# 村づくりの一環としての定時制高校

## 田代高等学校

はじめに

昭和二十三年新学制により、縣立根占高等学校田代教場として猪尾昭和二十五年分校へ昇格を見、昭和二十七年第一期新校舎落成と現在の華々しい後を辿る足どりを反省し、あわせて将来の確実な進み方を検討してみたい。

### 村の実態

今開発開拓が盛んになり上げられないならばならない位、最も文化的におくれた大隅半島の更に南隣の海に面しない、純然たる農山村が我が村である。村の実態を見る上と、総面積七六七八町三反八畝の一歩。総面積に対して林野七九%、耕地九八%（田三〇八町歩畠四五〇町歩）、農家一戸当平均六戸四戸になる、総戸数一、四六八戸のうち八四%、二五一戸が農家である。耕地面積に対する農家の戸数が多いめ畠廻りが多く、反対未開拓家が全体の半分以上を占め、八反以上で九、二%を占める状態である。

地方分権の強化に伴い貧困なる村経営を運営するためには、何とか年第五年目を迎えたわけであるが、その対策により積極的に経済自立のための計画を樹立せざるを得ない。次計画の結果をみると、昭和二十四年西葉農業五ヶ年計画となり、逐次成果を認めながら本校のあゆみ

更に進んで昭和二十六年度から国庫下臨時措置法による三八〇、有林下臨時措置法による三八〇、町歩を二千五十五万円を以つて払ふも終り、本昭和二十八年度が第一次計画の結果をみる年である。

高橋は経済的な面で財政に大きな負担をかけ、加うるに昭和二十一年高橋の統合廢止と相まって高橋の存続が困難化し大きな話題となつたが、一寸とした不注

子供が朝学校に行く時は元気な姿

で出て行つたが、一寸とした不注

なつた。

「お母さん行つて参ります」と

お母さん行つて参ります」と

お母さん行つて参ります」と